

令和7年第三回区議会定例会(9月議会) 一般質問(概要)

1 区民から、より選ばれる公立中学校のあり方について

<かがやき中央 ほづみゆうき議員>

(質問1) 区内の小学生及びその保護者への区立中学校を知る機会の現状と今後のさらなる充実について問う。

<教育長答弁>

区立中学校での学校行事や土曜授業をはじめ、教育広報紙「かがやき」や新一年生向けの案内冊子などを通じて、学校生活や特色ある教育活動を発信している。また、リニューアルされた学校ホームページでは、学校経営方針や重点目標に加え、日々の出来事などを写真やブログ形式で分かりやすく情報発信しており、これらの取組により小学生や保護者へ区立中学校の魅力を伝えている。教育委員会では今後も魅力的な学校づくりと情報発信に努める。

(質問2) 各学校における評定及び学習状況への認識とフィードバック体制について

<教育長答弁>

成績一覧表調査委員会では、評定の客観性と信頼性を確保するため、評価基準を共有し、個別評価が適正か、分布の偏りがないかを検証している。学校間の評定差は生徒の達成度を反映したもので、東京都からの指摘もなく妥当である。評定一^{いち}の割合が複数年度高い学校があっても、生徒の違いによるもので、学校間の実人数差は適正な範囲と認識している。各校では評価結果を授業改善に活用し、個に応じた指導を行っている。教育委員会では、今後も学校訪問や研修を通じて、指導と評価の一体化を推進していく。

2 本区の今後のまちづくりについて <立憲民主党・無所属 高橋元気議員>

(質問1) 晴海西小学校・晴海西中学校の児童・生徒数が当初の予測を上回った原因
及び今後の晴海西小学校と豊海小学校の教室数について

<教育長答弁>

晴海地区では、晴海フラッグの人口増加に対応するため、小学校2校分と中学校1校の学校整備が計画され、学校規模を考慮しながら、まず小学校・中学校を各1校先行して開設した。残りの小学校1校分の開設時期は、人口動態を見極め決定する考えであったが、コロナ禍やオリンピックの延期で入居見通しが不透明であり、その判断は極めて困難であった。そうした中、令和4年度の児童数推計に基づき晴海西小学校の第二校舎とすることとし、現在、令和11年度の開設に向けて準備を進めている。しかしながら、晴海フラッグへの入居が想定を上回る速さで進んだため、第二校舎の開設前に教室不足が生じ、仮設増築棟を設置することとなった。

晴海西小学校と豊海小学校における教室数は、現行計画で不足が生じないものと考えている。

3 多様な区民の声を区政に反映させる仕組みについて

<無会派 上田かずき議員>

(質問1) 共働き世帯が関わりやすい学校づくりへの支援とPTA活動について

<教育長答弁>

各学校では、日頃から保護者との対話を大切にし、学校評議員制度などをおして保護者と一体となった学校運営に取り組んでいる。また、教育委員会では、共働き世帯の増加や働き方の多様化に対応するため、時間や場所を選ばず学校と連絡がとれる保護者連絡ツールを導入するとともに、リニューアルした学校ホームページを通じて学校運営への理解促進を図っている。

PTA活動は子どもの教育環境と健全育成に重要であると考えているが、時代に即した活動を求める声があることも認識している。PTAから活動内容に関する相談があった際には、自主性を尊重しながら、活動の活性化に協力していく。

今後とも、共働き世帯を含むすべての家庭と連携した学校づくりを進めていく。

(質問2) 子どもたちが主体的に学びに参画できる取り組みの実施状況について

< 教育長答弁 >

区立学校は、子どもたちが自ら課題を発見し解決する能力を育むため、学習指導要領の改訂を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進している。次期学習指導要領でも、主体的な社会参画を促す教育の推進が議論されており、その重要性はより一層増していると認識している。総合的な学習の時間や各教科では、探究的な学びを通して、子どもたちが自律的に課題解決に取り組む力を育成している。また、運動会や文化祭といった学校行事の企画・運営を子どもたちが行うことで、自主性の向上も図られている。今後とも、子どもたちが自ら学びを創造し、主体的に課題を解決する教育活動を積極的に推進していく。